

## NO LIFT CHALLENGE 2024

～利用者にも職員にも優しいケアを～

法人・事業所名

社会福祉法人恩賜財団 愛知県同胞援護会  
特別養護老人ホーム 春緑苑

職種・発表者

介護士／佐藤大輔・介護士／土田義国

## 01 取り組んだ課題

春緑苑では介護ロボットやICT、AIといった技術の導入を進め、人手不足を補いながら効率化とサービスの質向上を図っており、少子高齢化が加速する中で、職員が安心して働ける環境を整える事は、今後さらに重要な課題だと考えています。職員が年齢や性別を問わず、やりがいを持って働き続けられる環境を創出し、その結果、質の高い介護サービスを実現させる為に当苑でノーリフティングケアを実践し、具体的な取り組みや効果を共有する事で「利用者様にも職員にも優しいケア」の実現に繋げていく。

## 02 具体的な取り組み

- ノーリフティング推進委員会を設立し、各職種よりメンバーが集結。毎月委員会を開催する事で各自の問題点やユニットの課題を共有し、各職種の専門的視点を踏えて意見交換できる環境を整えた。又、委員会メンバーから一般社団法人全国ノーリフティング推進協会主催の研修へ参加する事でより専門的な知識を得る事ができた。
- 現状の用具活用状況と不足している用具の数を把握し、不足している用具について委員会メンバーを中心に適正用具の選定を実施した。
- 用具選定に関して対象者となる利用者が不明確という問題に対して、専門職種の視点を基に用具選定のフローチャートを作成した。
- モデルユニットを選定し、ノーリフティングケアの実践に取り組んだ。

## 03 活動の成果と評価

- 全国ノーリフティング推進協会の研修で得た情報を委員会メンバーで共有する事でノーリフトの知識が向上した。
- 施設全体で用具が増加した事により人力で行っていた介助が軽減した。
- フローチャートを活用する事で、職員全員が同じ指標を基に用具を選定する事が出来るようになった。
- 移乗時の介助負担が大きかったユニットの人力移乗回数を減少させる事が出来た。

## 04 今後の課題

- ノーリフティングポリシーの宣言し、ユニット単位での活動では無く、施設全体での取り組みとして認識し、職員一人一人の意識改革を図る。
- 福祉機器のマニュアル作成や使用状況を管理し、継続的に使用をしていく事でノーリフティングケアの定着化を図る。
- ノーリフティングケア推進委員会に全ユニットのリーダーを招集し、情報共有や意見交換の場を設ける事で委員会の活性化を図る。
- 一般社団法人全国ノーリフティング推進委員会の研修へ新たなメンバーが参加し、指導者として育成していく。

# NOLIFT CHALLENGE 2024

利用者にも職員にも優しいケアを

法人公式キャラクター



ごうくん&えんちゃん



社会福祉法人 恩賜財団 愛知県同胞援護会 春緑苑

令和7年3月14日(金)  
【発表・操作】佐藤・土田



# はじめに・・・



平成30年度から【眠リスキャン】や介護記録ソフト【ケアカルテ】といったICTの導入を進め、人手不足を補いながら効率化とサービスの質向上に取り組んできました。

しかしながら、令和4年度～5年度にかけて腰痛によって休職や現場対応が出来ない職員が増加し、急激な人手不足に陥りました。そのような中で、いかに今いる職員の安全を守り、

- ・人員を確保すること
- ・腰痛予防に関する教育

が、必要でした。

今のままでは、職員を守ることが出来ず、ますます人手不足になってしまいます。

そこで着目したのが、福祉用具を活用して介助の幅を広げる

## 「ノーリフティングケア」

です。





# 4つの効果



## 腰痛 予防



## 腰痛予防

福祉用具を活用し、正しい介護技術を実践することで腰痛予防や身体的負担を軽減できる

## 人材確保

身体的負担の軽減でどの職員でも安定して長期的に働ける環境を整える事が出来る

## 利用者の安心

- ・力任せの介護は利用者の精神的・身体的不安を引き起こす
- ・福祉用具の活用で安定した介護を受けられ安心に繋がる
- ・安心安全の介助が筋緊張の緩和に繋がり拘縮予防になる

## 生産性向上

福祉用具の活用で2人介助の場面も、1人介助で実施する事が可能となる

## 生産性 向上



## ノーリフト ケア

No  
Lifting  
Care



## 人材 確保



## 利用者 の安心





# ノーリフティングケア推進委員会 設立

# ノーリフティングケアに関する意識調査



**ノーリフトケア実践に向けた職員アンケート**

※当人は、法人本部でノーリフトケア実践に向けた話し合いがなされています。  
そこで、ノーリフトケアを実践するにあたり職員として何が課題となるアンケートにて調査を執り、その結果を職員に共有  
取りたいと考えておりますので、ご回答をお願いします

ユニット名 \_\_\_\_\_  
姓 名  男性  女性 \_\_\_\_\_  
年齢  19未満  20以上  29以上  30以上  34以上  35以上  39以上  40以上  44以上  49以上  54以上  59以上  64以上  69以上  74以上  79以上 ( )

1. 意識について

(1) 現在、あなたに理解を覚えていますか  はい  いいえ  
※「はい」と回答した方へ

(2) それはいつからですか  施設稼働時から ( 年 )  ユニット稼働後  
年 \_\_\_\_\_  
 その他 \_\_\_\_\_

(3) 理解を促すために、自己で行っている施策はありますか  はい  いいえ  
※「はい」と回答した方へ

(4) 目標からどのような対策を講じていますか \_\_\_\_\_

(5) どのような会議等で職員に共有がなされると思いますか (複数回答可)  
 研修  施設紹介  研修会  入居説明  単位発表  
 ページ上の印刷物  車椅子上での説明会の他  その他 \_\_\_\_\_

(6) 具体的にどのような動作に負担がせまると思いますか

**【移乗動作】**  車椅子への乗降の取上げ  車椅子への降ろし作業  車椅子への乗降作業  その他 \_\_\_\_\_

**【搬送介助】**  入居説明時の取上げ  ページ上での印刷物の取上げ  ページ上での印刷物の取上げ  施設紹介時の搬送  搬送がなくても印刷物の取上げ  その他 \_\_\_\_\_

**【取上げ介助】**  フォーム印刷物内印刷物の取上げ  施設紹介時の取上げ  シンク・トイレ・車椅子の取上げ  取上げ作業  その他 \_\_\_\_\_

2. ノーリフトケアについて

(1) ノーリフトケアを知っていますか  はい  いいえ

(2) ノーリフトケアを実践していますか  はい  いいえ  
※「ノーリフトケアを実践している」とお答えの方は

(3) 実践していることを具体的に  
 スタンドリフトの取上げ  スタンドリフトの取上げ  スタンドリフトの取上げ  
 その他 \_\_\_\_\_

(4) スタンドリフトを対象者全員に使用出来ていますか  はい  いいえ  
※理由を、立止時間や取上げ高さや車椅子の取上げ高さなどでお知らせください

(5) 使用出来ない理由を教えてください  
\_\_\_\_\_

(6) スタンドリフトを対象者全員に使用出来ていますか  はい  いいえ  
※理由を、立止時間や取上げ高さや車椅子の取上げ高さなどでお知らせください

(7) 使用出来ない理由を教えてください  
\_\_\_\_\_

(8) スタンドリフトを対象者全員に使用出来ていますか  はい  いいえ  
※「はい」と回答した方へ

(9) 使用出来ない理由を教えてください  
\_\_\_\_\_

(10) 何故、実践しないの理由を教えてください  
\_\_\_\_\_

(11) ノーリフトケアを対象者全員に実践するには、何が必要だと思いますか (出来れば具体的に)  
\_\_\_\_\_

3. 搬送器具の取扱いについて (ここからはリーダーもしくはサブリーダーが調査して下さい)

(1) エリットにある搬送器具を記入して下さい  
【移動型車椅子 (mobility chair)】 【搬付型モジュール型車椅子】 【折りたたみ型】  
  
( )台 ( )台 ( )台

【折りたたみ型車椅子 (mobility chair)】 【折りたたみ型車椅子】  
  
( )台 ( )台

【リフト型車椅子 (lift chair)】 【リフト型車椅子】  
  
( )台 ( )台

(2) スタンドリフトの取上げとスリットボードの取上げの対象となる入居者を記入して下さい  
スタンドリフト ( )台  
スリットボード ( )枚  
対象となる入居者 \_\_\_\_\_  
その中で使用出来ている入居者 \_\_\_\_\_

(3) スタンドリフトの取上げとスリットボードの取上げの対象となる入居者を記入して下さい  
スタンドリフト ( )台  
対象となる入居者 \_\_\_\_\_  
その中で使用出来ている入居者 \_\_\_\_\_

(4) スタンドリフトの取上げとスリットボードの取上げの対象となる入居者を記入して下さい  
スタンドリフト ( )台  
対象となる入居者 \_\_\_\_\_  
その中で使用出来ている入居者 \_\_\_\_\_

令和5年10月24日 ノーリフトケアチーム



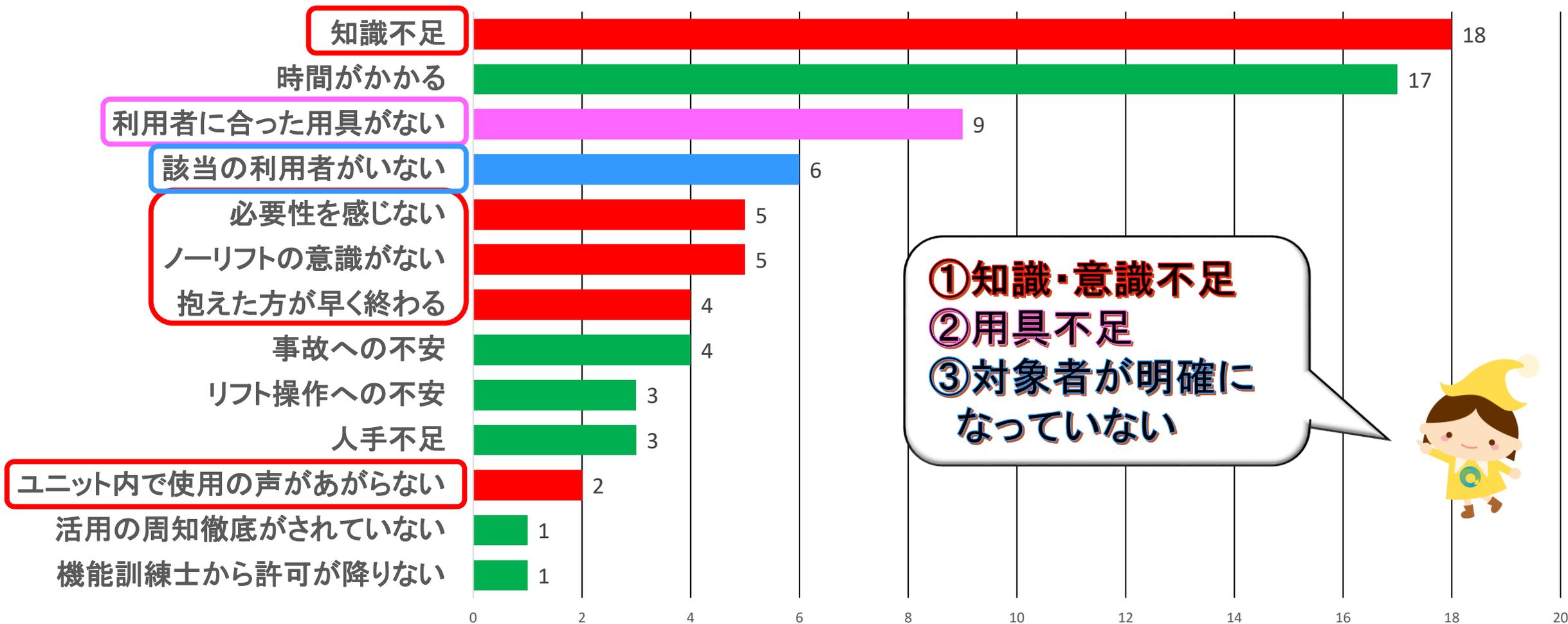


# 意識調査からの課題

令和5年11月1日～11月15日

ノーリフティングケアが実践出来ない理由を教えてください(複数回答可)

(件数)



N=78



## 毎月委員会を開催

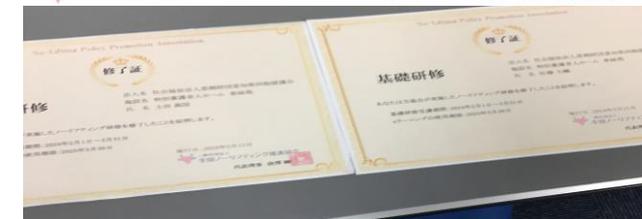
- 話し合った内容を書面や動画にまとめ共有する

## 外部研修へ参加

- 一般社団法人全国ノーリフティング推進協会が主催する研修に参加
- 研修で得られた情報を委員会内で共有
- 委員会メンバーを中心とした勉強会を開催

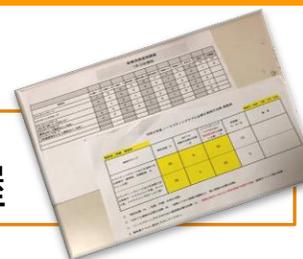


一般社団法人  
全国ノーリフティング推進協会



## 数の把握

- 全体で用具の使用状況と不足している用具の数を把握



## 用具の選定

- 委員会のメンバー中心で適切用具の選定



各種用具	R5.11月 保有数	必要数	不足数
スライディングボード	7枚	17枚	10枚
スライディングシート	5枚	17枚	12枚
スライディング グローブ	1双	9双	8双
跳ね上げ式 車椅子	20台	31台	11台
跳ね上げティルト& リクライニング車椅子	28台	33台	5台



## フローチャートの作成

- 専門職種の視点を基に利用者の状態に応じて適切な用具を活用出来るようにフローチャートを作成

**PT監修!**

春緑苑独自の  
フローチャート作成



### 移乗福祉用具 選択フローチャート②

下肢筋力の発揮が不十分または全くないため  
移乗の際に全介助を要する

座位保持が自立または一部介助

座位保持が不安定

座位保持が困難

褥瘡リスクなし

褥瘡リスクあり

膝関節の拘縮なし～軽度

膝関節の拘縮が中等度～重度

スライディングボード

スタンディングリフト

吊り上げ式床走行リフト  
心材入りスライディングシート



委員会メンバーを中心に活動を進めてきたが、全体への周知が困難

委員会への参加率も徐々に低下し、情報共有や意識の共有が困難

ノーリフティングケアが浸透していかない



**モデルユニット**を選定し  
**ノーリフティングケア**の促進を図る

# 各ユニット移乗時の介護負担を把握

加点点	0	1	2
①立ち上がり動作	◎or○(要見守り)	△(要介助)	×(不可能)
②立位保持	◎or○	△	×
③座位保持	◎or○	△	×
④拘縮	なしor軽度	中等度	重度
⑤筋緊張	正常or軽度亢進	中等度亢進	著明に亢進
⑥協力動作	得られるorやや得られる	得られにくい	得られない

## 各項目を評価することにより、移乗時の介護負担を数値化

### 項目：①②立位動作・保持

- 自立または見守りにて行える場合 **0Pt**
- 持ち上げたり支えたりする事で立ち上がりや立位保持が可能な場合 **1Pt**
- 立ち上がりや立位保持が出来ない、危険を伴う場合 **2Pt**

### 項目：③座位保持

- 自立または見守りにて行える場合 **0Pt**
- バランスが崩れない様に身体を支える事で座る事が出来る場合 **1Pt**
- 支えても身体がのけぞってしまう状態で座る事が出来ない場合 **2Pt**

### 項目：④拘縮

- なしor軽度の場合 **0Pt**
- 中等度の場合  
膝周りの拘縮が見られる **1Pt**
- 重度の場合  
足先まで拘縮が強く見られ  
靴底が浮いている **2Pt**

膝の可動域限界 20度~30度減

40度以上減

### 項目：⑤筋緊張

- 正常or軽度亢進の場合 **0Pt**
- 中等度亢進の場合 **1Pt**
- 著明に亢進の場合 **2Pt**

筋肉のこわばりにより関節の曲げ伸ばしの際に抵抗感がとても強く無理に動かそうとすると皮下出血を生じたり関節を痛める恐れがある

### 項目：⑥協力動作

- 得られるorやや得られる場合 **0Pt**
- 得られにくい場合 **1Pt**
- 得られない場合 **2Pt**

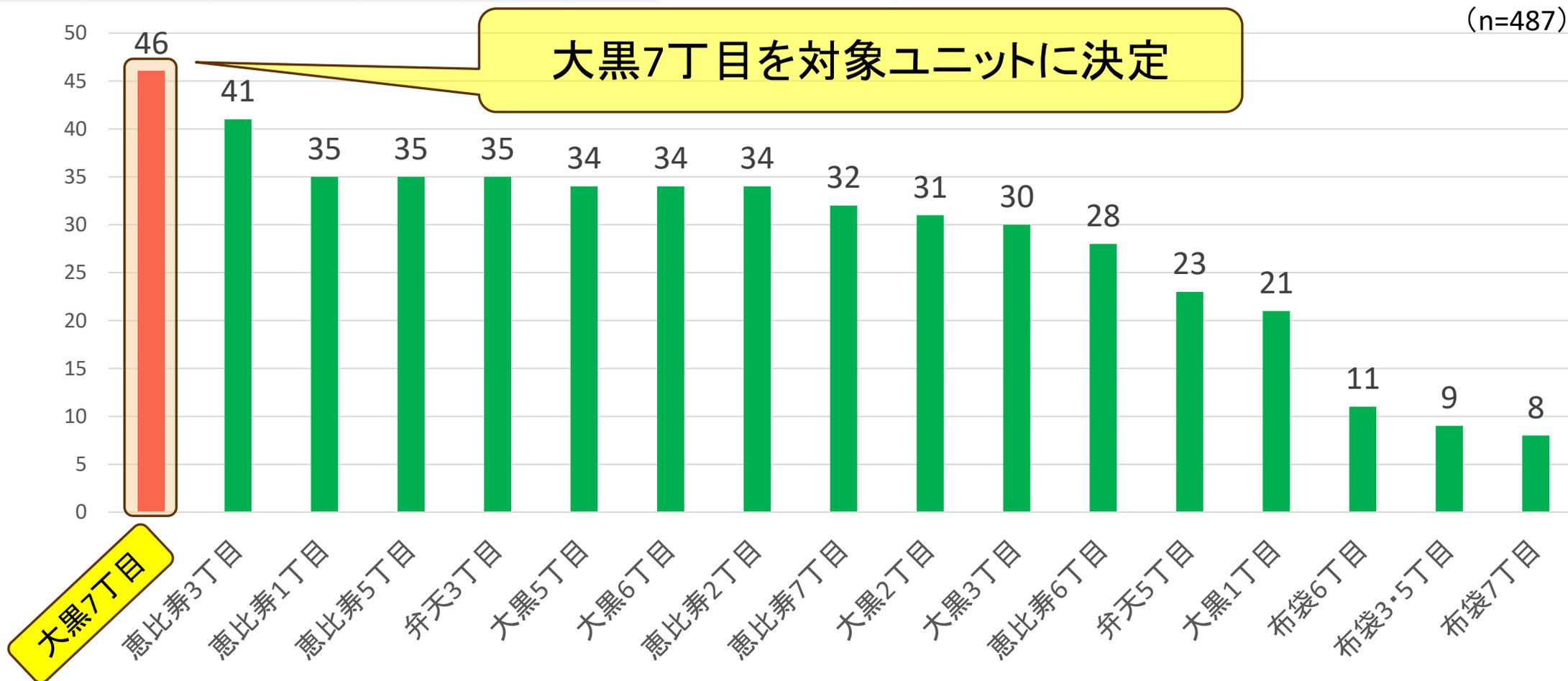
# 各ユニット移乗時の介護負担を把握

## 春緑苑：特養17ユニット

移乗時の介助負担

令和6年9月15日現在

(n=487)





フローチャートを活用し利用者様ごとの適切用具を選定

## 移乗福祉用具 選択フローチャート

立ち上がり動作において下肢筋力の発揮が十分

立ち上がり動作において下肢筋力の発揮が概ね十分

立ち上がり動作において下肢筋力の発揮がやや不十分

移乗自立  
職員は見守りを行う

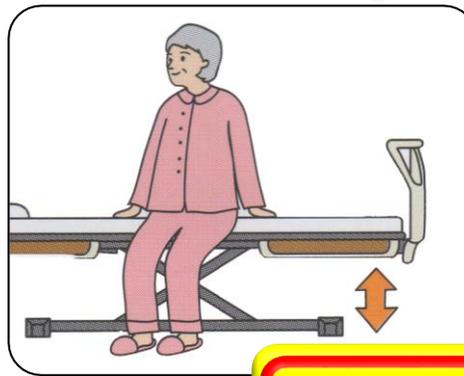
移乗見守り～軽介助  
手すり等の支持物を使用職員は軽く支える程度の介助を行う

移乗中等度介助  
職員はしっかり身体を支えて立ち上がりや立位保持を介助する

機能訓練としての意味を持たせるため  
声掛け等により入居者の能力を最大限に引き出す



# 自立～中程度介助



自立支援

過度な人力移乗



全介助

NG

# 移乗福祉用具 選択フローチャート②

下肢筋力の発揮が不十分または全くないため  
移乗の際に全介助を要する

座位保持が自立または一部介助

座位保持が不安定

座位保持が困難

褥瘡リスクなし

褥瘡リスクあり

膝関節の拘縮なし～軽度

膝関節の拘縮が中等度～重度

スライディングボード

スタンディングリフト

吊り上げ式床走行リフト  
心材入りスライディングシート



大黒7丁目									
氏名	立ち上がり動作	立位保持	座位保持	拘縮	筋緊張	協力動作	体重(R6.9)	移乗の介助量	
1	I.U	△	△	△	中等度	正常	やや得られる	35.9kg	中等度介助
		備考：意思疎通は概ね良好で、ある程度の協力動作を得られるが、左片麻痺の影響により傾きが生じるため安定した立位保持は困難。左片麻痺への病識が乏しく無理に動かれるため、転倒、転落に注意。中等度評価だが、 <b>状態によって全介助。</b>							
2	S.K	×	×	△	著明	軽度亢進	得られにくい	51.4kg	<b>全介助</b>
		備考：膝関節の屈曲拘縮が著明であるため、ご自身による立ち上がり動作や立位保持は困難。また全身的に筋緊張が亢進しているため体幹の前傾にも介助を要する。							
3	T.M	×	×	△	著明	正常	得られにくい	37.8kg	<b>全介助</b>
		備考：膝関節の屈曲拘縮が著明であるため、ご自身による立ち上がり動作や立位保持は困難。							
4	S.M	◎	◎	◎	軽度	正常	得られる	43.0kg	自立
		備考：身体機能は良好に維持されており独歩も可能。移乗介助は不要。							
5	I.K	○	○	○	軽度	正常	得られる	38.4kg	軽介助
		備考：手すり等の支持物があれば立ち上がり動作および立位保持は安定。移乗は見守りにて可能だが、円背により前傾姿勢となるため転倒に注意が必要。							
6	I.S	△	△	△	軽度	正常	得られにくい	45.6kg	中等度介助
		備考：その時々での覚醒状態によって介助量増減。また介助拒否なのか、介助者の腕を強く握ったり、噛みつくような場面も時折生じる。中程度評価だが、 <b>覚醒状態によって全介助。</b>							
7	O.T	◎	◎	◎	軽度	正常	得られる	52.8kg	軽介助
		備考：左不全片麻痺が残存しているが、立ち上がり動作および立位保持は概ね安定。認知機能も良好で協力動作も得られやすい。							
8	F.K	○	○	△	軽度	正常	得られる	34.8kg	軽介助
		備考：立ち上がり動作や立位保持は概ね安定するが、小脳の疾患により運動失調が存在するため、足の踏み換えによる方向転換動作が拙劣。							
9	T.T	×	×	△	著明	中等度	得られない	38.5kg	<b>全介助</b>
		備考：認知機能、覚醒状態の低下により意思疎通が困難で、下肢筋力の低下と膝関節の屈曲拘縮により全介助を要する。							
10	I.H	△	△	△	中等度	正常	得られる	51.3kg	<b>全介助</b>
		備考：認知機能、意思疎通は良好で協力動作を得られるが、下肢筋力の低下と膝関節の屈曲拘縮により全介助を要する。							

# 機能訓練士の 評価を基に

## 全介助者を 抜粋

### 6名を

## フローチャートで

## 用具を選定

移乗福祉用具  
選択フローチャート

下肢筋力の発揮が不十分または全くないため  
移乗の際に全介助を要する

座位保持が自立または一部介助

座位保持が不安定

座位保持が困難

褥瘡リスクなし

褥瘡リスクあり

スライディングボード



膝関節の拘縮なし～軽度

スタンディングリフト



膝関節の拘縮が中等度～重度

吊り上げ式床走行リフト  
心材入りスライディングシート



S.Kさん

下肢筋力の発揮が不十分または全くないため  
移乗の際に**全介助**を要する



座位保持が自立または**一部介助**



褥瘡リスクなし



スライディングボード



氏名	立ち上がり動作	立位保持	座位保持	拘縮	筋緊張	協力動作	体重 (R6.9)	移乗の介助量
2 S.K	×	×	△	著明	軽度亢進	得られにくい	51.4kg	全介助
備考：膝関節の屈曲拘縮が著明であるため、ご自身による立ち上がり動作や立位保持は困難。また全身的に筋緊張が亢進しているため体幹の前傾にも介助を要する。								

# 同様の評価の4名

氏名	立ち上がり動作	立位保持	座位保持	拘縮	筋緊張	協力動作	体重 (R6.9)	移乗の介助量
3 T.M	×	×	△	著明	正常	得られにくい	37.8kg	全介助
備考：膝関節の屈曲拘縮が著明であるため、ご自身による立ち上がり動作や立位保持は困難。								
6 I.S	△	△	△	軽度	正常	得られにくい	45.6kg	中等度介助
備考：その時々 <sup>の</sup> の覚醒状態によって介助量増減。また介助拒否なのか、介助者の腕を強く握ったり、噛みつくような場面も時折生じる。中程度評価だが、 <b>覚醒状態によって全介助。</b>								
9 T.T	×	×	△	著明	中等度	得られない	38.5kg	全介助
備考：認知機能、覚醒状態の低下により意思疎通が困難で、下肢筋力の低下と膝関節の屈曲拘縮により全介助を要する。								
10 I.H	△	△	△	中等度	正常	得られる	51.3kg	全介助
備考：認知機能、意思疎通は良好で協力動作を得られるが、下肢筋力の低下と膝関節の屈曲拘縮により全介助を要する。								

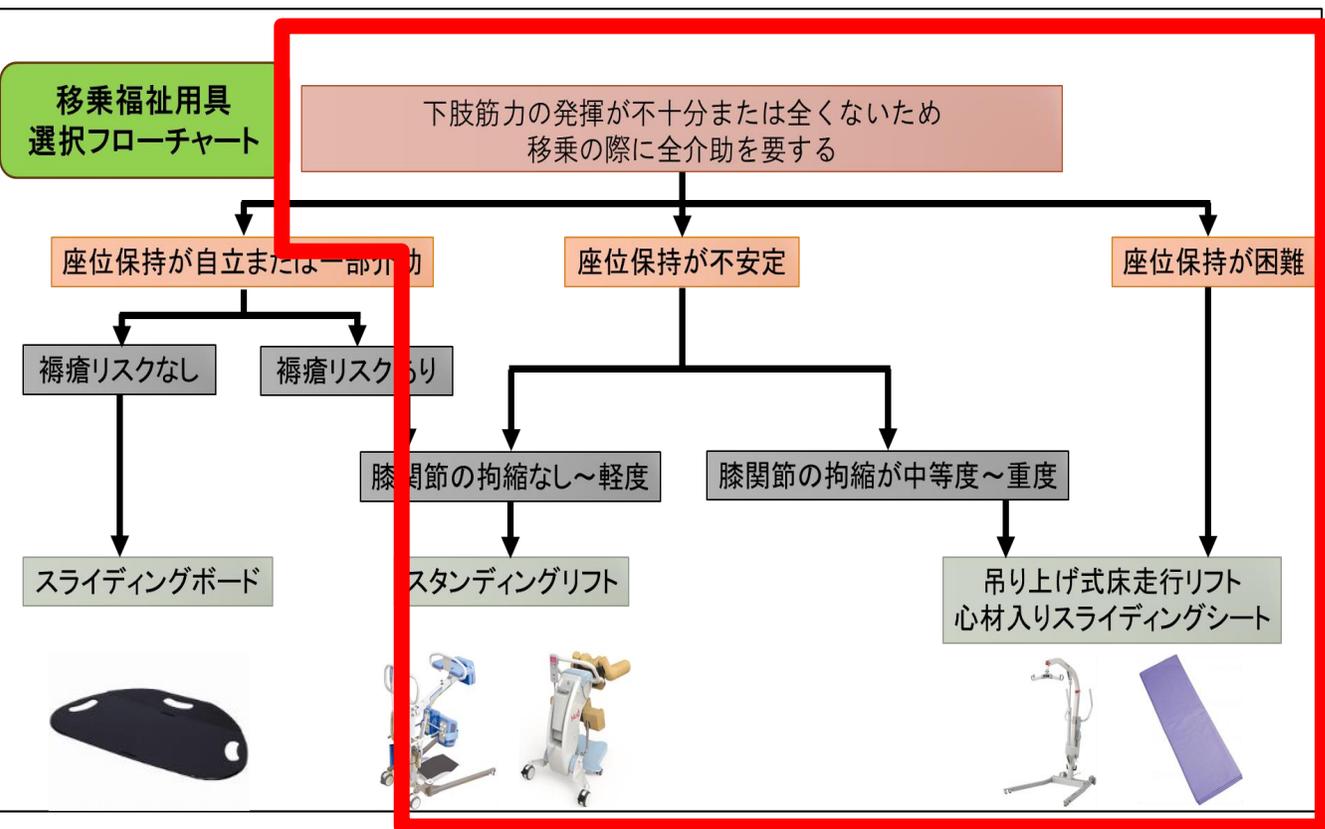
下肢筋力の発揮が不十分または全くないため  
移乗の際に**全介助**を要する

座位保持が自立または**一部介助**

褥瘡リスクなし

スライディングボード





I.Uさん

下肢筋力の発揮が不十分または全くないため  
移乗の際に**全介助**を要する



**座位保持が困難  
(転倒転落の危険がある為)**

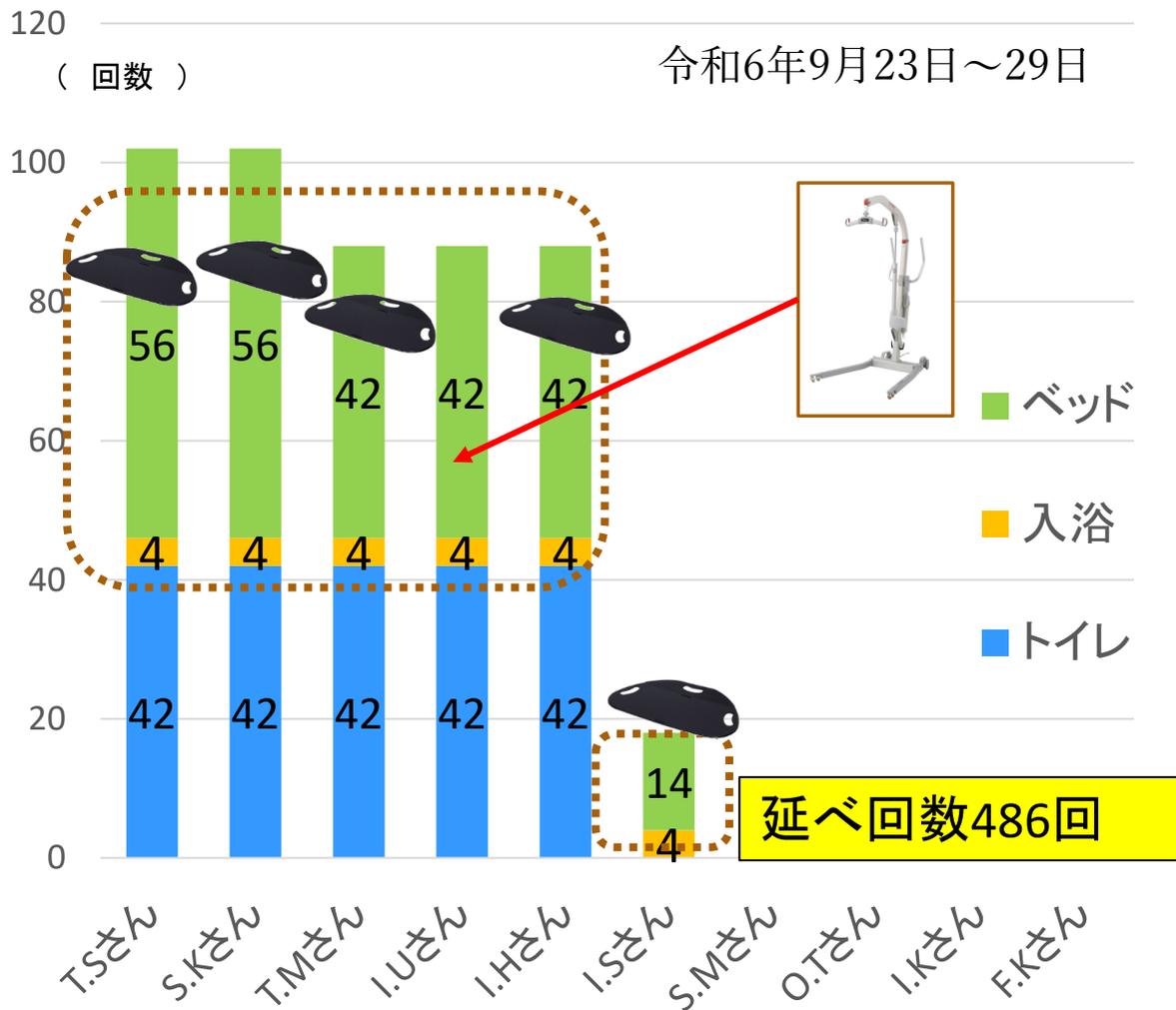


吊り上げ式床走行リフト  
心材入りスライディングシート



氏名	立ち上がり動作	立位保持	座位保持	拘縮	筋緊張	協力動作	体重 (R6.9)	移乗の介助量
1 I.U	△	△	△	中等度	正常	やや得られる	35.9kg	中等度介助
備考：意思疎通は概ね良好で、ある程度の協力動作を得られるが、左片麻痺の影響により傾きが生じるため安定した立位保持は困難。左片麻痺への病識が乏しく無理に動かれるため、転倒、転落に注意。中等度評価だが、 <b>状態によって全介助。</b>								

# 1週間の人力移乗回数



## 排泄・入浴介助には適せず

排泄介助  
入浴介助

スライディングボード

スライディングシート

## 排泄介助可 入浴不可

吊り上げ式床走行リフト

スタンディングリフト



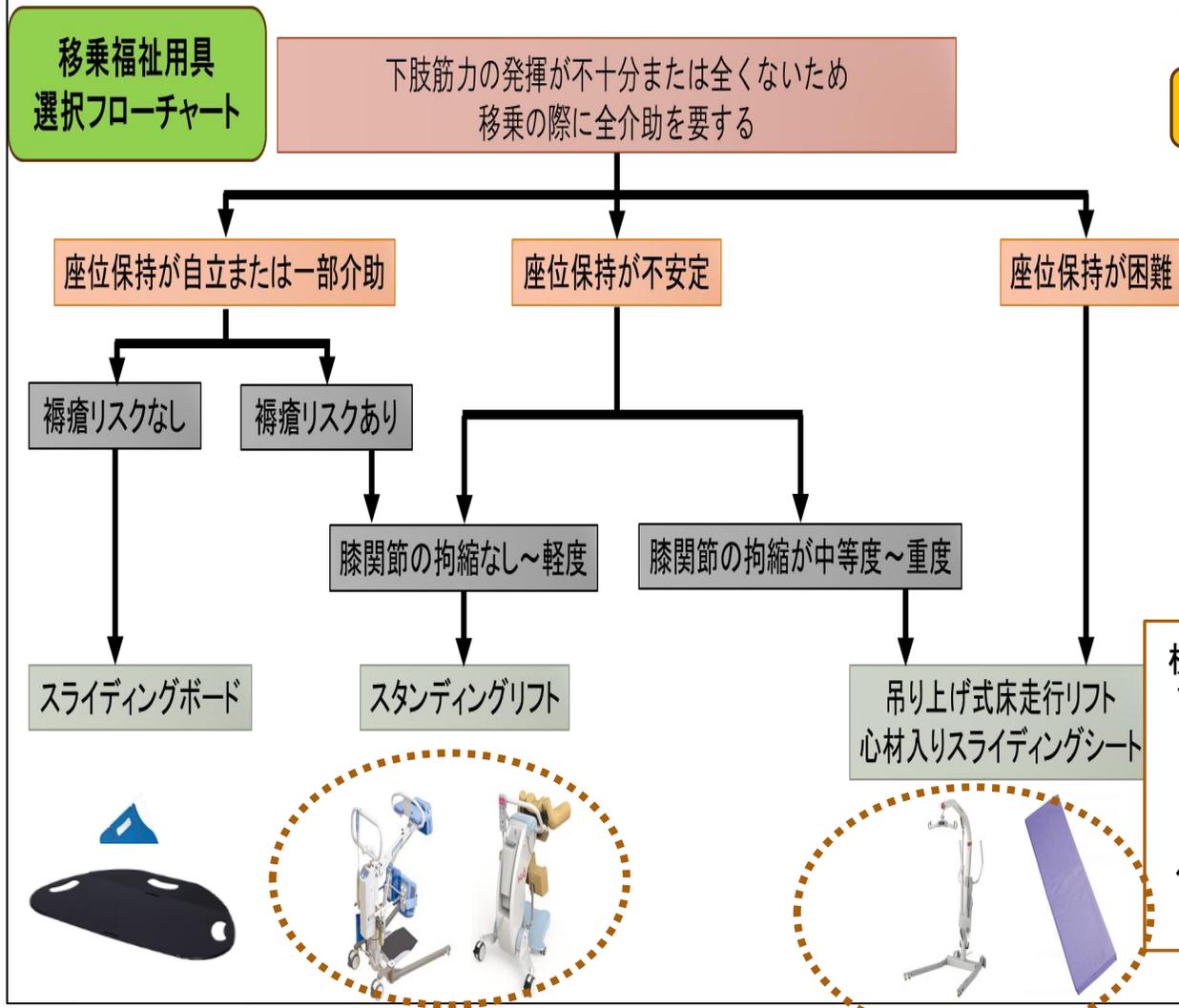
# 排泄介助時



I.Uさん

氏名	立ち上がり動作	立位保持	座位保持	拘縮	筋緊張	協力動作	体重 (R6.9)	移乗の介助量
1 I.U	△	△	△	中等度	正常	やや得られる	35.9kg	中等度介助

備考：意思疎通は概ね良好で、ある程度の協力動作を得られるが、左片麻痺の影響により傾きが生じるため安定した立位保持は困難。左片麻痺への病識が乏しく無理に動かれるため、転倒、転落に注意。中等度評価だが、**状態によって全介助**



下肢筋力の発揮が不十分または全くないため  
移乗の際に**全介助**を要する

座位保持が自立  
または一部介助

褥瘡リスクなしorあり

膝関節の拘縮なし～軽度

スタンディングリフト

機能訓練指導員の  
直接の評価により  
膝関節の拘縮が  
強い方も  
一部条件付きで  
使用可とする場合  
もある



# 入居者10名中



スライディングボード



スタンディングリフト



吊り上げ式床走行リフト

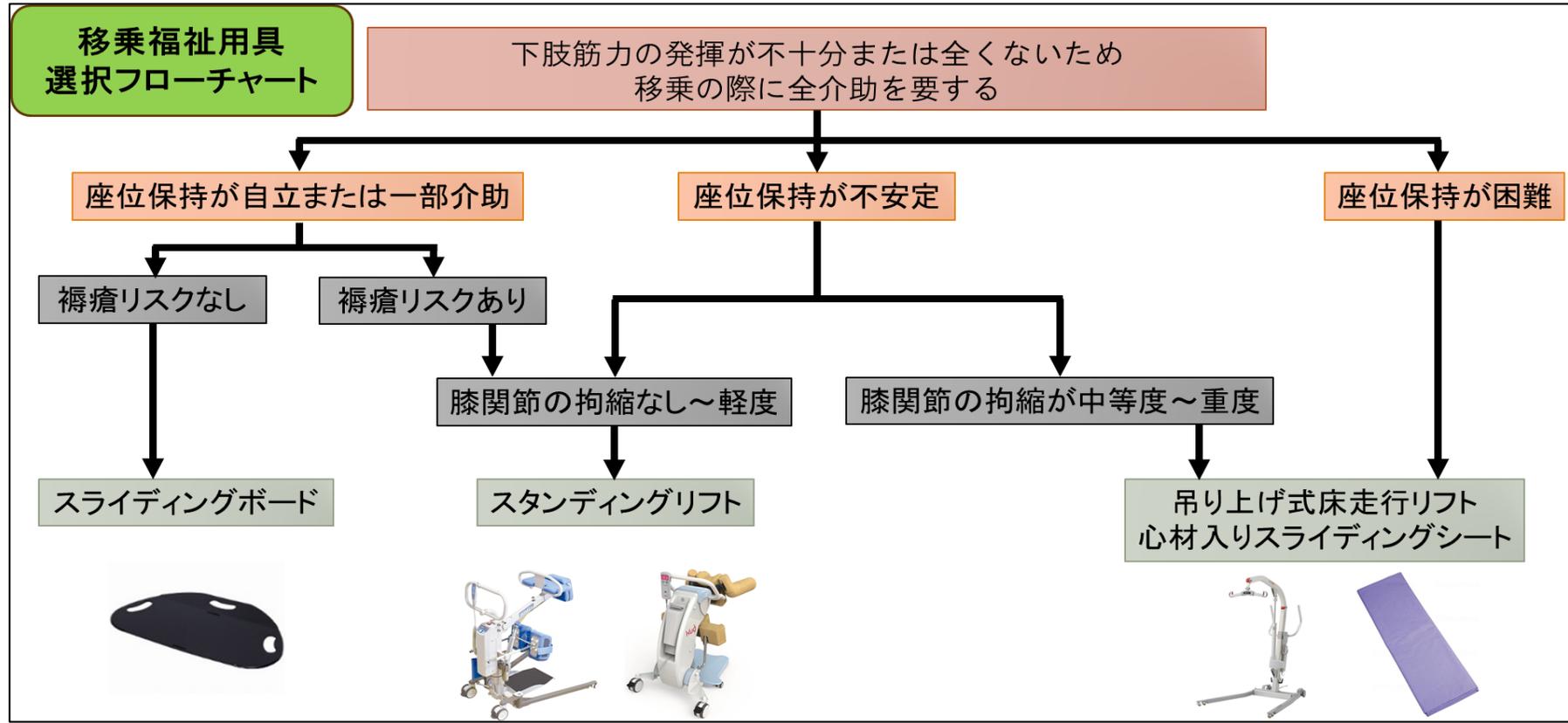
バラつき

職員の判断



統一

ケアプランに  
反映

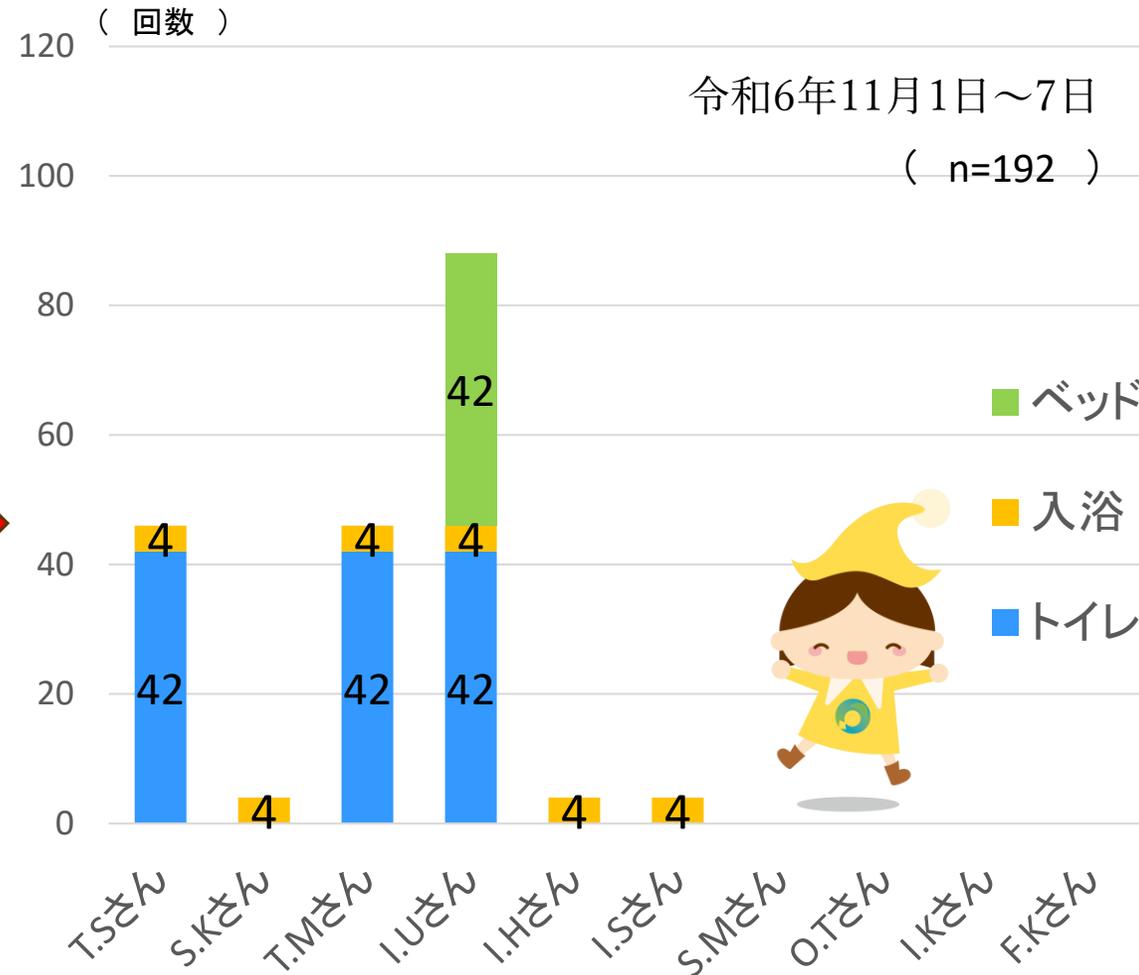
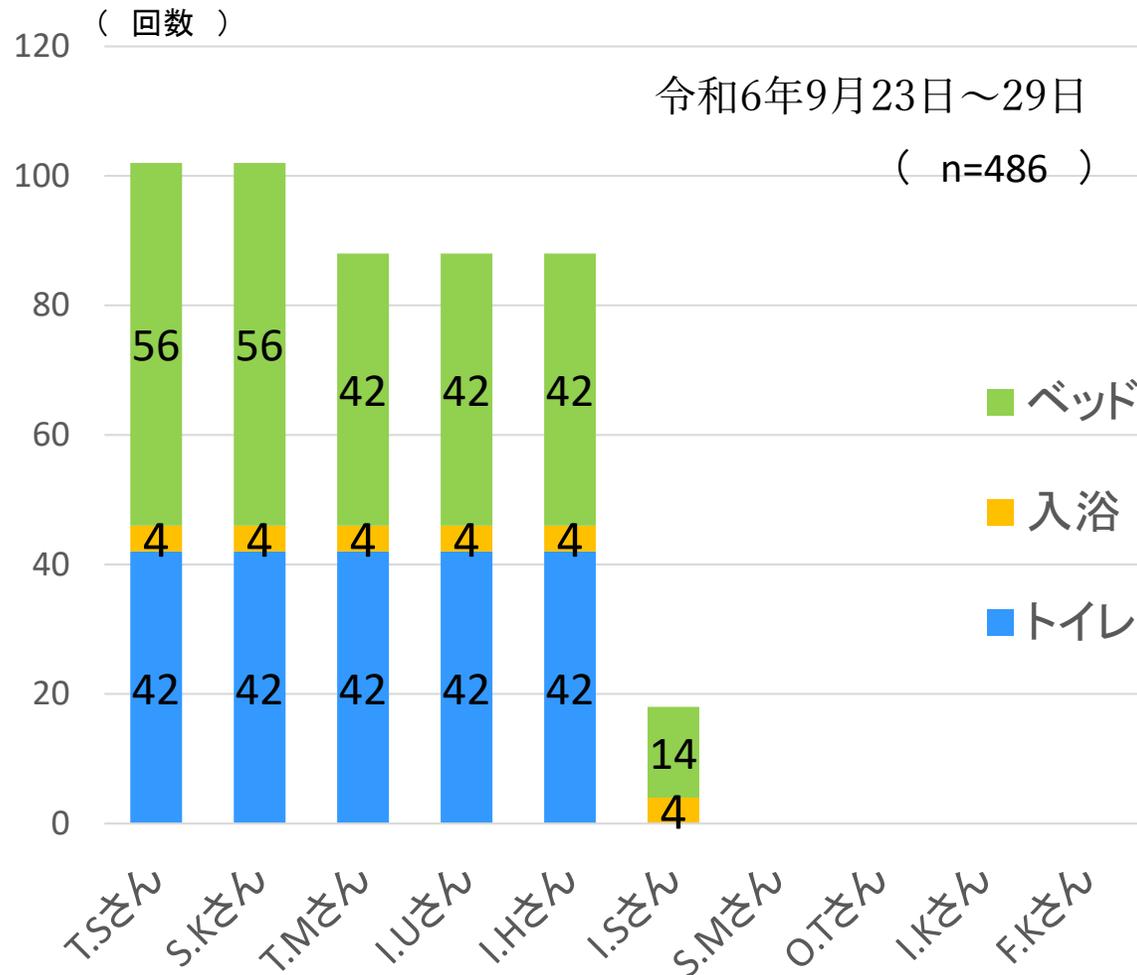


# ノーリフティングケアによる効果(成果)

## 1週間の人力移乗

総回数486回 → 192回

**60%減**



排泄サポートリフト『onbu』

ROBOHELPER『SASUKE』

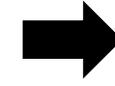


( n=192 )

入浴用スタンディングリフト『hug』

# 1週間の人力移乗

192回



12回

93%減

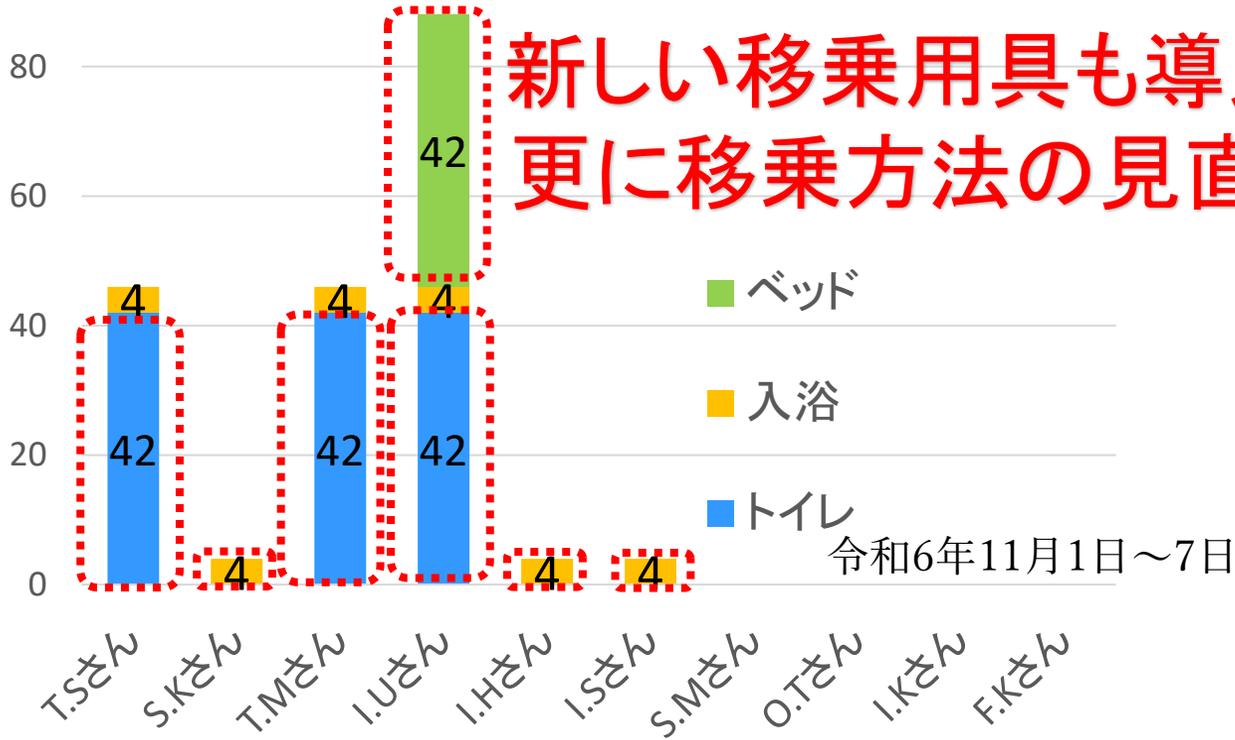
( 回数 )

令和7年2月目標

( n=12 )

新しい移乗用具も導入!  
更に移乗方法の見直し

ケア定着に向けて  
現場指導





立ち上がり動作において下肢筋力の発揮が不十分もしくは全く無し

移乗福祉用具  
選択フローチャート

移乗: 重度～全介助  
抱え上げや常時身体を支える介助が必要  
適切な移乗福祉用具の使用を検討

車椅子～ベッド間の移乗

車椅子～トイレ間の移乗

【ADL】  
座位保持自立もしくは一部介助(片手で支える程度で可)

【ADL】  
座位保持全介助

全身に重度拘縮あり  
筋緊張が著明に亢進

吊り上げ式床走行リフト+セパレートタイプのスリング

褥瘡リスクなし

褥瘡が生じている  
もしくは褥瘡リスクあり  
(臀部の摩擦を避ける必要あり)

膝関節の拘縮  
なし～軽度

膝関節の拘縮  
中等度～重度

スライディングボード

吊り上げ式床走行リフト  
サスケ  
芯材入りスライディングシート

スカイリフト  
Hug

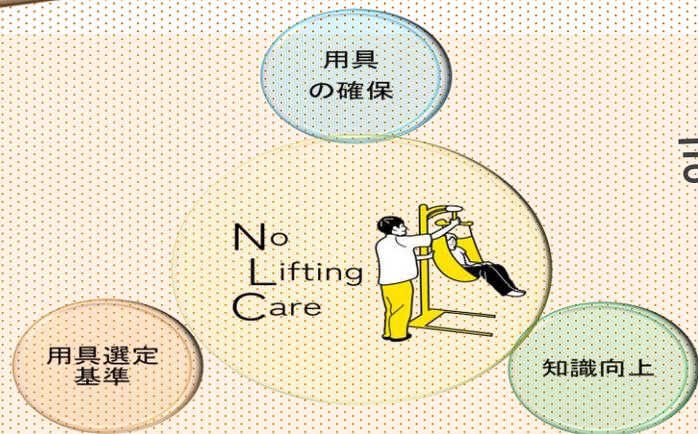
onbu



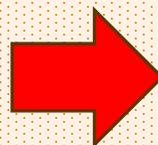


# まとめ

## 今回の取組内容



まだ、土台が出来たのみ...



## 今後の課題



職員一人一人の意識改革

福祉機器マニュアルの整備と  
機器の管理

ノーリフティングケア推進委員会の在り方

指導者の育成

今後ますます少子高齢化が加速する中、ノーリフティングケアの定着化を中長期の課題とし、効率化やケアの質向上、職員が安心して働ける環境を構築していく為に



# No Lifting Care



ご清聴ありがとうございました